

研修等 報告書

平成 30 年 6 月 29 日

三田市議会議長 今北義明 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	代表者	印
	議員名	小杉崇浩
参加者氏名	小杉崇浩 印	
講演会等研修名	平成 30 年度予算でおさえておくポイント	
研修事項	1. 平成 30 年度予算でおさえておきたいポイント② 2. 子どもの貧困について 3. 公共施設の再編問題	
日 時	平成 30 年 4 月 16 日 (月曜日) ~平成 30 年 4 月 17 日 (火曜日)	
場 所	TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター	
	<p>最初に参加した講義は、「平成 30 年度予算でおさえておきたいポイント②」ということで、主な内容は、国の予算編成を踏まえ、地方財政の構造的な仕組みの説明でした。まずは地方交付税の説明から始まり、臨時財政対策債、地方税、補助金、地方債と説明が進みました。序盤の地方交付税の説明では、地方交付税制度がないアメリカの実状を例にあげ、裕福な地域とそうでない地域の地域間格差が生まれ、地域によっては市民生活に必要な教育や警察の予算すら確保できないような状況になってしまいかねないというものでした。地方交付税交付金のあり方を変えるということは、国の形を変えるほどの重要なことであるとのことでした。また、自治体の歳入と歳出を家計に例えての説明はとてもわかりやすいものでした。決算カードの見かたも説明していただき、地方財政の仕組みの理解を進めることができました。特に、これまでその仕組みがあまりよく理解できていなかった臨時財政対策債についてよく理解することができました。財政状況の把握は基本的な知識がなければ始まらないということが改めてはっきりしたので、今後もさらなる勉強を続けていきたいと思えます。</p> <p>2 日目の午前は、「子どもの貧困について」がテーマでした。前半は、子どもの貧困に対する制度や支援の仕組みについて、後半は、先進事例を紹介しながらの具体的なアプローチについての説明でした。これまでの行政のアプローチは、申請主義に基づいており、声を上げる力がそもそもある人には</p>	

支援が届くが、声を上げることすらできない人には支援が届かない状況であったとのことでした。そのため、すべての子どもの状況を把握し、支援につなげるため、学校をプラットフォームにする子ども対策が行われるようになったとのことでした。また、子どもの貧困の実態を捉えるうえでは、相対的貧困率と物質的剥奪指標などを用いることが大切であり、平均像を捉えるだけでは不十分だという説明がありました。特に、物質的剥奪指標によるアンケート調査では、生活水準そのものを具体的に把握でき、より貧困の実相に迫ることができるとのことでした。制度面では、生活保護制度の詳しい説明のあと、生活困窮者自立支援制度の説明がありました。生活困窮者自立支援制度は、都道府県によってその実施状況に大きな差があり、自治体の積極性が問われていると思いました。生活困窮者自立支援制度の先進事例としては、箕面市の個人情報保護条例の改正、野洲市の多重債務者包括的支援プロジェクト、京丹後市の寄り添い支援総合サポートセンター等が紹介されました。これら3つの事例の共通点として、部課の枠を超えて情報を共有できる仕組みを構築している点があげられ、全庁を通じた横断的な対応が重要だと改めて思いました。講義の最後には、講師より子どもの貧困対策条例の策定のすすめがあり、自治体が責任をもって取り組むためにも大変興味深い提案だと思いました。

所 見

2日目の午後は、「公共施設の再編問題」がテーマでした。まず前提となる考え方として、公共施設の再編は広い意味で地方創生の一環として捉える必要があるとのことでした。その視点で考えると、都市再生特別措置法の改正（2014年）により進められている立地適正化計画の策定（コンパクトシティの推進）と切り離せない関係にあるとのことでした。将来の人口推移をみると、少子高齢化がさらに進むことは避けられず、そのため財政コスト削減のためのコンパクトシティの推進と公共施設の再編が不可欠であり、国はそれを推し進めようとしているとの説明でした。公共施設の再編は、全体的な視点で見ると、行財政改革と都市・地域再編と国土強靱化という3つの地域政策の結節点として位置づけることができるとのことです。講義の後半は、公共施設の再編の具体的な事例紹介でした。相模原市、秦野市、浜松市、堺市、さいたま市、新潟市、飯田市の事例が紹介されていました。特に、秦野市や飯田市の事例では、住民参加を積極的に進めており、まちづくりの視点を大事にしているという点が素晴らしいと思いました。

全体を通して、財政の仕組みとまちづくりは切り離せないものだと改めて学ぶことができました。また、子どもの貧困のような福祉の問題も、財政的視点から考えることがソフト面の支援にも大きな示唆を与えてくれることがよくわかりました。今後の議員活動においても、今回学んだことをしっかりと活かしていきたいと思えます。

2018年4月17日

107

# 平成30年度予算でおさえとお ポイント

森 裕之(立命館大学)

# 平成30年度予算でおさえとおきたい ポイント②

地方財政制度を徹底的に理解する

# 公共施設の再編問題

地方創生の本旨